

第633回

九州朝日放送番組審議会議事録

—— 2021年5月度 ——

◇ 開催日

2021年5月17日(月)

◇ 議題

<テレビ番組>

「今田美桜Fのミライ2021」放送日時：3月20日(土) 正午

5月12日(水)福岡県に3度目の緊急事態宣言発出されたことを受け、
委員長以外の委員はWEBのテレビ会議システムを利用したリモート参加とした

九州朝日放送株式会社

第633回 番組審議会議事録

1. 開催年月日 2021年5月17日(月)午後3時25分～4時40分
2. 開催場所 九州朝日放送 本社役員会議室
及び福岡県に3度目の緊急事態宣言発出を受け、委員長以外の委員は、
WEBのテレビ会議システムを利用したリモート参加とした

3. 委員の出席

委員総数 8名

出席委員数 8名

委員長	戸田 康一郎
副委員長	赤木 由美
委員	丸石 伸一
委員	中山 裕二
委員	石井 靖子
委員	守田 有理子
委員	石橋 和幸
委員	藤村 まこと

欠席委員数 0名

放送事業者側出席者名

代表取締役社長	和 氣 靖
常務取締役	笹 栗 哲 朗
総合編成局長兼ラジオ局長	坂 井 剛
報道情報局長	柴 田 高 宏
総合編成局 番組戦略部長	濱 田 克 則
ケイ・ビー・シー映像 プロデューサー	福 田 重 和
番組審議会事務局長兼視聴者・広報室長	石 橋 聡
番組審議会事務局 (視聴者・広報室)	松 永 俊 郎

4. 議 題

(1) テレビ番組

「今田美桜Fのミライ2021」 放送日時：3月20日(土) 正午から

(2) 5月・6月 ラジオ・テレビ番組編成状況の報告

(3) 4月 視聴者・聴取者応答状況の報告

(4) その他

5. 議事の概要

委員の意見（概要）

委員からは、

- 成長が続く福岡という都市の勢いを感じさせてくれる番組で、将来の進化を身近なものとして実感できる明るい内容だった。今後の福岡がどう変わるのか、イメージで伝えるCGは迫力があり分かりやすかった。テレビの特性や技術が駆使されていると感じた。
- コロナ禍でストレスがたまる毎日。何かと不透明で暗い情報が多いが、そうした状況をもろともせず、たくましく色々なことに強い志を持って取り組もうという前向きな気持ちにさせてくれる番組だった。
- 「天神ビジネスセンター」のレポートは、コロナ対策が強調されており、視聴者の関心に沿う内容だった。オフィス需要が減り、「天神ビックバン」等のプロジェクトが失速するのではないかと懸念もあるが、そうした不安を払しょくさせる内容だった。
- スマートシェアサイクル「Charichari」やオンデマンドバス「のるーと」などの最新技術に加え、ソフト面でも、大人気アニメ制作会社やゲーム制作会社など、みんながびっくりするようなインパクトある企業が福岡にあることを知れてよかった。
- 福岡市の高島宗一郎市長の「福岡で育った子どもたちが自己実現できる、住み続けられる街にしたい」という思いがすごく伝わった。若い世代に未来への夢や希望を抱きつかけになる番組だったのではないか。
- ナビゲーター役の今田美桜さんはとても自然体で良かった。親近感がわいた。ナチュラルで、ほのぼのとした感じを受けた。地元の福岡をよく知る今田さんだからこそのコメントに共感する場面も多かった。
- KBC宮本啓丞アナウンサーと高島市長の「同期コンビ」ならではのテンポの良い進行に好感を持った。今田さんがナビゲートするほのぼのとした場面から、活力がある2人に切り替わる場面が番組にメリハリをもたらしていた。

などの評価を頂きました。

また、気になる点や望むこととして、

- 情報が満載で、慌ただしく次々と未来図を見せられた感があった。魅力的な最新情報が続くが、1時間という番組の長さを考えると、途中から驚きに慣れてしまい、やや退屈する流れにも感じた。
- 今田さんがナビゲートする部分と、宮本アナウンサー・高島市長が紹介する部分が交互

に出てきて、話が行き来している気がした。情報の一つひとつが「さわり」だけになっているという印象を受けた。

- 初めて聞く言葉や建物を一つひとつ消化するのが難しかった。最初に「天神ビッグバン」等の概要説明が欲しかった。福岡のことをあまり知らない視聴者への配慮が欲しかった。
- 資料には「天神ビッグバン」「博多コネクティッド」「ウォーターフロントネクスト」とあるが、今回の番組は「天神ビッグバン」が中心で、他の紹介が限定的だったのは残念だった。次作では、未来を作る「人物」にもフォーカスして欲しいと感じた。
- より魅力的な街への発展と共に、残された課題も少なからずある。コロナ禍に新しい明るい話題を提供することは大切だが、同時にダークサイドや問題提起の部分にも触れて欲しかった。

などの批評や提言を頂きました。

これらに対して、担当者からは、

- 新型コロナの影響が「天神ビッグバン」などのプロジェクトにどんな影を落としているのかが番組制作の上で一番の懸念だった。しかし、プロジェクトは確実に進んでいることが取材を通して分かった。地場経済や都市の潜在能力を撮影から感じる事ができた。
- 「天神ビッグバン」の概要説明は、もう少し丁寧にするべきだったと思う。ちょうど2度目の緊急事態宣言下での制作となり、撮影から放送までの時間が大きく制約されたため、内容を詰め込み過ぎたという反省は否めない。
- 「天神ビジネスセンター」は内部の独占取材が許され、高いクオリティのVTRができた。報道機関として「記録する」という使命もある。「Fのミライ」が貴重なアーカイブになるよう継続取材をしたいと考えている。
- 第1弾で「天神ビッグバン」や「博多コネクティッド」「ウォーターフロントネクスト」を深く紹介したので、今回（第2弾）はソフト面も取材したかった。若者に関心が高いアニメ制作会社やゲーム制作会社の話題をピックアップした。
- 放送当日はツイッターも展開し、アニメ制作会社等の場面では、若者を中心にいわゆる「バズった」状態となった。狙いとしていた若年層への訴求も達成できた印象がある。
- 福岡アイランドシティやベイサイドプレイスなど、取り上げるべきエリアは他にもある。エンターテインメント業界や医療ビジネスなどの注目すべき産業もある。人物にもフォーカスする番組を次回は検討したいと思う。
- いま若手女優として高い人気を誇る今田美桜さんは、所属事務所とともに、番組をととても大切に考えてくれている。飾らない言葉と豊かな感性でレポートしていただける今田さんとの関係性は今後も継続させていきたいと考えている。
- KBCの元アナウンサーだった高島市長の出演について、賛否の声があるかもしれないが、「Fのミライ」は、視聴者が暮らす福岡でいま何が起きているのかを伝えることに重きを置いている。番組づくりはあくまでもニュートラルであるべきだと考えている。

などの説明をしました。